

科目名	楽書講読	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	アルバレス・ホセ・サンティアゴ	単位	1	年次	3

＝授業科目の目標＝

この科目は主として、音楽教育学を専攻する学生のための選択必修科目として開設されています。欧文の書物の講読も考えましたが、今年は日本語の文献を扱うこととします。

音楽を分析するに当たり、様々な立場があることを認識するために、谷村晃著『ウィーン古典派の精神構造』の序論と第1章を取り上げます。音楽を学としてとらえるときの視座を検討していきます。

＝履修の条件と学習の方法＝

このテーマに関心を持つ学生であれば、専攻、年次にかかわらず受講可能です。日本語の文献の講読ですのでテキストはもちろん、さらなる文献探索の努力も期待します。具体的に、各自が音楽作品にあてはめて考察を加えてみることも興味深いでしょう。

大学生が取るべき受講態度を、必ず実践すること。

＝授業内容＝

- 1回 ガイダンス：テキスト配布、進行方法の確認
- 2回 『ウィーン古典派の精神構造』の序論を読む(1)
- 3回 『ウィーン古典派の精神構造』の序論を読む(2)
- 4回 『ウィーン古典派の精神構造』の序論を読む(3)
- 5回 『ウィーン古典派の精神構造』の序論を読む(4)
- 6回 『ウィーン古典派の精神構造』の序論を読む(5)
- 7回 『ウィーン古典派の精神構造』の序論を読む(6)
- 8回 『ウィーン古典派の精神構造』の第1章を読む(1)
- 9回 『ウィーン古典派の精神構造』の第1章を読む(2)
- 10回 『ウィーン古典派の精神構造』の第1章を読む(3)
- 11回 『ウィーン古典派の精神構造』の第1章を読む(4)
- 12回 『ウィーン古典派の精神構造』の第1章を読む(5)
- 13回 『ウィーン古典派の精神構造』の第1章を読む(6)
- 14回 プロトコルをまとめる
- 15回 討論をして締めくくる

＝成績評価の方法と評価の基準＝

受講状況や討論への参加の姿勢などを総合して評価します。
プロトコルの提出を求めることがあります。

＝テキスト（必携）＝

版元品切れにつき、必要部分をプリントにて配布します。